

目録 List

鳥取県・島根県の動物相に関する
文献目録 第7集 (2015年)鶴崎展巨¹・淀江賢一郎²¹〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101

鳥取大学地域学部生物学研究室

E-mail: ntsuru@rs.tottori-u.ac.jp

²〒690-0862 松江市比津が丘2-1-7

E-mail: shimane@sc4.so-net.ne.jp

¹ Nobuo TSURUSAKI and ² Ken-ichiro YODOE (¹ Laboratory of Biology, Faculty of Regional Sciences, Tottori University, Tottori, 680-8551 Japan; ² Hizugaoka 2-1-7, Matsue, 690-0862 Japan): **Bibliography concerning fauna of Tottori and Shimane Prefectures, Honshu, Japan. No. 7 (2015).**

キーワード — 島根県, 鳥取県, 動物相, 記録, 文献目録

Abstract — This bibliography comprises literature on the fauna of the San'in District (Tottori and Shimane Prefectures of Hoshu) published in 2013. Some articles published before 2013 may be also included when they have not been covered in the previous bibliographical series.

Key words — bibliography, fauna, faunal records, Tottori Prefecture, Shimane Prefecture, San'in District

鳥取県と島根県の動物相に関して2015年に出版された文献のリストである(前報までに掲載もれの2014年以前の文献も含む)。最後に付録として、両県内をタイプ産地として記載された動物のリストを掲げる(今回は鳥取県から3種、島根県から2種)。

文献入手または文献情報収集等にご助力をいただいた浅野 隆, 有田 斉, 藤岡知夫, 小林京子, 鳥越頼子, 林 成多, 大高明史, 田村昭夫, 直海俊一郎, 渡辺弘之の諸氏に御礼申し上げます。

凡 例

採録範囲は、おもに鳥取県・島根県内の陸上域(沿岸の海域を含む)に生息する動物に関する記録を含む文献であるが、本県に密接な関係があると思われるものは県外のものも対象としている。配布範囲が狭いなどで、最初から正式公表を目的としたとは考えにくい記事(観察会で配布されるプリント, 内部的報告書, 大学のサークル・学校のクラブ

等の部内機関誌に掲載されたもの)も原則として扱わない。

鳥取県内での初記録など動物相解明の点でとくに必要と思われるものを別として、短報やそれに類した簡略化された記録(野鳥の出現情報など)も、積極的には拾っていない。

配列は分類群ごとの(総合/哺乳類/鳥類/両生類/爬虫類/魚類/昆虫:総合/昆虫:トンボ類/昆虫:直翅系/昆虫:半翅目/昆虫:ネジレバネ目/昆虫:鞘翅目/昆虫:双翅目/昆虫:脈翅目/昆虫:膜翅目/昆虫:鱗翅類/クモガタ類/甲殻類/軟体動物/その他の海産無脊椎動物), 著者のアルファベット順である。どちらの県に関係するかは、個々の文献の末尾に角かっこ ([]) 内に記す。市販されているものについては価格を記した。スラッシュ (/) 以下は要旨あるいはコメントである。

NT = 鶴崎展巨, KY = 淀江賢一郎。

【総合】

加本恂二・山根吉郎・細田和男・須藤和裕・越川俊樹(2015) ホシザキグリーン財団環境修復事業報告～沢池の環境再生(3年目)～. 平成26年度ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書. pp. 47-66. / 雲南市大東町山王寺の頂上の高原にある沢池の環境修復事業。ブラックバスで打撃を受けていた環境の修復。[島根県]

小林一彦(編集 淀江賢一郎)(2015) 小林一彦著作集. 小林京子(刊行) 総合印刷株式会社(鳥取市, 印刷), 335 pp. 2500円. / 小林一彦氏(1934-2006)がご生前に残された研究報告, 論文, 解説などを集めたもの。鳥取自然保護の会の観察会で配られた資料については、すでに2011年に出された「自然の魅力を伝えつづけて逝った. 中国山地を中心とした30年間の自然案内の記録. 山本印刷株式会社(倉吉市), 287 pp.」でカバーされているが、今回のものはそれ以外の研究報告などの集成で、編集の労をとられた淀江氏によるあとがきによると、小林氏の著作178編中139編が収録されているとのこと。小林氏の自然観, 研究内容を知るうえで、また、今後の鳥取県の自然についての調査研究においても、もっとも待ち望まれた出版物である。一般には入手しにくいところに書かれた報文も多く、私も今回初めて目にしたものが多数あった。(NT) [鳥取県]

【哺乳類】

安藤誠也(2015) 放置モウソウチク林におけるニホンイノシシのタケノコ摂食期間と食痕の時期的な変化について. 三瓶自然館研究報告 No.13. pp.55-59. [島根県]

片岡大輔(2015) 島根県松江市東出雲町でコテングコウモリを確認. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, p.

102. / 島根県東部で記録のなかったコテングコウモリを松江市で確認(2013年)。くずの枯葉をめぐらとして休息していた個体。[島根県]

渡辺弘之(2015)自然学講座の10年を振り返って。それホンマ!? 自然観察会余話. シニア自然大学校 地球環境「自然学」講座, 45 pp. / pp. 8-9の「鳥取砂丘は砂漠ではない 砂漠と沙漠・鳥取砂丘のラクダ」という見出しの記述中に、鳥取砂丘には観光用にフタコブラクダがいるが、そばにいる業者がアラブ人のような服装をしている。しかし、フタコブラクダの分布は中央アジアなので、それを操る人がアラビア人のような服装をしているのはおかしい、という指摘がある。2015年に鳥取県がおこなった観光キャンペーン(?)でもアラブ風の衣装をまとった平井知事がフタコブラクダといっしょに写っていた。中央アジア(モンゴル・中国など)、アラブ諸国双方の人々に対してたいへん失礼であり、国際問題になりかねないことを平井知事と鳥取県は重々認識すべきであろう。(NT) [鳥取県]

【鳥類】

桐原圭介・米田洋平・神谷 要(2015)米子水鳥公園の生態系と野鳥図鑑. 今井印刷(米子市), 231 pp. ISBN: 978-4-906794-75-1, 1800円. / 米子水鳥公園でみられる、あるいは記録されたことのある鳥類217種の図鑑(漢字すべてにふりがなつき)。ほぼ全種に当地で撮影された写真(ないものは絵などで代用)がついている(写真の撮影日付はついていない)。著者たちのせいではないだろうが、帯に「217品種の山陰の野鳥たち」と書かれているのはいただけない(品種と種の違いに無頓着なのだろう)。(NT) [鳥取県]

星野由美子(2015)三瓶自然館野外観察コーナーで見られる鳥類(Ⅱ). 三瓶自然館研究報告 No.13. pp.27-35. [島根県]

星野由美子・市橋直規・仲村 昇(2015)旧ふれあいの里奥出雲公園における亜種アカショウビンの現況. 三瓶自然館研究報告 No.13. pp. 51-54. [島根県]

上野吉雄・荒木 信・森 茂晃・星野由美子(2015)広島県および島根県におけるソウシチョウの生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 225-230. / 西中国山地から島根県船通山にかけてのソウシチョウの2012-2014年の生息確認地点。ササのある落葉広葉樹林に広く生息する。[島根県]

【両生類・爬虫類】

藤田宏之・寺岡誠二(2015)島根県雲南市におけるアカハラ

イモリ幼生の冬季確認の一例. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 167-169. / 雲南市大東町の水たまりで2014年1月27日に上陸前の幼生1個体を確認。[島根県]

【魚類】

越川敏樹(2015)コノシロの食性と宍道湖・中海の環境. 平成26年度ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書. pp. 1-20. / 宍道湖と中海でスズキと並んで優占種となっているコノシロの食性調査と大量死についての考察。[島根県]

越川敏樹(2015)刺網への魚のかかり方(1) ~中海における定期観察より~. 平成26年度ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書. pp. 47-66. [島根県, 鳥取県]

越川敏樹(2015)宍道湖・十四間川におけるコノシロとスズキの動き~夏場における酸素供給装置の稼働とその反応. 平成26年度ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書. pp. 1-20. [島根県, 鳥取県]

曾田一志・福井克也・沖野 晃(2015)島根県東部におけるゴギ生息状況調査(2013年). ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 103-109. / 斐伊川水系と飯梨川水系でのゴギの生息調査。13溪流のうち10で生息を確認。[島根県]

山口啓子・細田真生・坂井三郎・丸山竜平・Dettman, D. 越川敏樹・高安克己(2015)宍道湖・中海水系におけるスズキの回遊履歴を耳石の安定同位体比から読み解く(第1報). 平成26年度ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書. pp. 1-20. [島根県]

【昆虫類(総合)】

林 成多(2015)島根県の海岸に生息する昆虫. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, No. 14, pp. 1-120. / 島根県の海岸性昆虫の概説. 概説のあと、104種について生態写真2点と背面からの標本写真1点がカラー写真で1ページごとに特徴や生態などの情報とともに紹介されている。ゴヘイニクバエなど、これまで資料を得にくかった種についても数多く紹介されているきわめて貴重でかつ重要な資料である。[島根県]

林 成多(2015)山陰地方と隠岐諸島の海岸性昆虫相とその保全上の課題. 昆虫と自然, 50 (3): 19-21. / 山陰地方と隠岐諸島の海岸性昆虫相とその保全上の課題についての総説。[鳥取県, 島根県]

林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵(2015)隠岐諸島における昆虫類分布調査IV. ホシザキグリーン

財団研究報告. No. 18, pp. 179–196. / 2013–2014年の調査で469種の昆虫を確認。55種は隠岐諸島新記録。八重山諸島から知られるアンピンチビゲンゴロウが中ノ島で記録された。[島根県]

鶴崎展巨(2015)崖っぷちの海岸性昆虫. 昆虫と自然, 50(3): 2–3. / 本号の特集「海岸性昆虫とその保全」のまえがき, 兼, 鳥取砂丘でハラビロハンミョウが絶滅していることの報告。[鳥取県]

【昆虫:トンボ目】

北山 拓(2015) 2014年の島根県・鳥取県における飛来アカトンボの記録. すかしば, No. 62, pp. 51–54. / スナアカネ, タイリクアキアカネ, マンシュウアカネ, オナガアカネ. スナアカネは島根県・鳥取県の初記録種。[島根県, 鳥取県]

宮本諄子・宮本聡史(2015) 益田市のコバネアオイトトンボの記録. すかしば, No. 62, p. 36. / 2006–2009年の記録。[島根県]

野津幸夫(2015) 浜田市金城町傍示峠5月下旬の蜻蛉観察. すかしば, No. 62, p. 15. / クロスジギンヤンマ 浜田市金城町傍示峠 2013.5.25, 1♂. [島根県]

大浜祥治(2015) 大田市・美郷町でモートンイトトンボを確認. すかしば, No. 62, p. 36. / 大田市祖式町瀬戸(2012.6.20)と美郷町栢谷(2014.6.15)でモートンイトトンボ. 後者ではハッチョウトンボも。[島根県]

坂田国嗣(2015) 安来市でハネビロトンボを撮影. すかしば, No. 62, p. 31. / 安来市島田町(2014.8.20)撮影写真。[島根県]

轟 裕明・鶴崎展巨(2015) 汽水化以前(2003年)の鳥取市湖山池とその周辺のトンボ相. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 1–14. [鳥取県]

尹 振国・岩本真菜・鶴崎展巨(2015) 汽水化以前(2003年)の鳥取市湖山池とその周辺のトンボ相. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 15–32. [鳥取県]

【昆虫:直翅系】

田村昭夫(2015) バッタ採りから名前調べへ. —1年生だっでできる—. 昆虫と自然, 50(9): 31–34. / 倉吉市河北小学校での昆虫を使った生活科の授業実践例。[鳥取県]

【昆虫:半翅目】

尾原和夫(2015) ネズミモチ花序で得たハナムグリ類とカメムシ類. すかしば, No. 62, p. 27. / 大田市代官山公園のネズミモチで採集。2014.7.12. オオキンカメムシなど5

種。[島根県]

Watanabe, T., Yao, I., & Akimoto, S. (2015) Taxonomic revision of the *Tuberculatus quercicola* group (Hymenoptera: Aphididae: Drepanosiphinae), myrmecophilous aphids associated with *Quercus* species, based on morphometric and molecular phylogenetic studies. *Entomological Science*, 18: 55–65. / コナラ亜属につくカシワホシブチアブラムシ種群のアブラムシの分類学的改訂。 *Tuberculatus macrotuberculatus* 中央北海道品種のサンプルの採集地点として鳥取県の青谷町と大山が地図上にプロットされている。[鳥取県]

林 成多・桑原友春(2015) キマダラカメムシ(半翅目カメムシ科)を島根県大田市と出雲市で確認. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, p. 20. / 近年分布拡大しているキマダラカメムシの大田市中央図書館と出雲市出雲大社での2014年の生息確認記録。[鳥取県, 島根県]

國本洗紀(2015) ミンミンゼミの遅鳴き. ゆらぎあ, No. 33, p. 41. / 倉吉市打吹山における2015年11月22日のミンミンゼミの鳴き声の記録. 10月18日に打吹山でツクツクホウシが鳴いたという記録も. いずれもきわめて遅い記録と思われる. じつは私(鶴崎)も2015年秋に鳥取大学構内でミンミンゼミが非常に遅い時期に鳴いているのを聞き不思議に思ったが日付を記録するのを忘れてしまった(上記ほど遅くはなかったと思う)。 (NT) [鳥取県]

松井悠樹(2015) 鳥取市でキマダラカメムシを採集. ゆらぎあ, No. 33, p. 42. / 鳥取市鳥取駅北口駅舎の壁にとまっていた外来種キマダラカメムシの記録(2015.11.25)。[鳥取県]

皆木宏明(2015) 島根県大田市内で確認された外来種キマダラカメムシの記録. 三瓶自然館研究報告 No.13, pp. 65–57. [島根県]

野津幸夫・森 孝之(2015) 松江市八雲町でキマダラカメムシを採集. すかしば, No. 62, pp. 14–15. 松江市八雲町日吉親水公園での2014.11.21の記録。[島根県]

野津幸夫・中野一成(2015) タケウチトゲアワフキを船通山で採集. ゆらぎあ, No. 33, pp. 41–42. / 鳥取県では初記録と思われるタケウチトゲアワフキの記録. 船通山(2015.6.1)。[鳥取県]

大浜祥治(2015) 島根県産ヒメハルゼミの古い標本. すかしば, No. 62, p. 33. / 枕木山(1952.7.6)の1♀標本。[島根県]

大浜祥治(2015) 島根県内の平地性セミ数種の分布メモ. すかしば, No. 62, p. 33. / 島根県松江市, 大田市, 益田市などのクマゼミ, ハルゼミ, ヒメハルゼミ, チッチゼミの記録。[島根県]

吉富博之(2015) 島根県のアブラムシ3. ホシザキグリーン

財団研究報告. No. 18, pp. 277–285. / 島根県での2014年の調査でのアブラムシの記録。63種。うち13種は島根県新記録で島根県産アブラムシは169種となった。[島根県]

【昆虫:鞘翅目】

藤谷美文 (2015) 辰巳峠 (岡山県) のタマキノコムシ科甲虫。すずむし, No. 150, pp. 35–38. / 鳥取市佐治町辰巳峠でのタテスジヒメヒゲナガハナノミの記録 (2013.6.9), オオメホソチビドロムシも同時に採集。[鳥取県]

林 成多 (2015) ムナビロツヤドロムシ *Elmomorphus brevicornus* Sharp の幼虫。ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 219–223. / ムナビロツヤドロムシの未知であった幼虫の形態の報告。材料は鳥取県米子市新良路, 大山一の谷, 松江市島根町澄水川で採集されたものを使用。[鳥取県, 島根県]

林 成多 (2015) 出雲市でダンダラテントウを採集。すかしば, No. 62, p. 22. / 2014年10月24日, 出雲市塩冶有原町出雲市民会館の植栽シャリンバイで採集。[島根県]

林 成多・中野浩史 (2015) ケベリマメゲンゴロウ (コウチュウ目ゲンゴロウ科) を島根県の江の川水系で確認。ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, p. 224. / 江の川水系 (広島県も含む) で記録のなかったケベリマメゲンゴロウの記録。[島根県]

林 成多・曾田貞滋 (2015) クロサワドロムシ *Neoriohelmis kurosawai* Nomura の幼虫 (コウチュウ目ヒメドロムシ科)。ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 91–101. / クロサワドロムシの未知であった幼虫を確認。形態観察用と分子系統解析用の標本に鳥取県大山町萩原甲川と伯耆町白水白水仙日光橋から採集された個体を使用されている。[鳥取県]

日暮卓志 (2015) 鳥取県東部におけるオオキイロコガネの分布。すかしば, No. 62, pp. 1–4. / 1997年から1998年にかけて鳥取県東部でおこなったオオキイロコガネの分布調査結果の報告。鳥取市湖山から青谷町までの範囲のみに局地的にみられたよう。[鳥取県]

井ノ上 健 (2015) オオチャイロハナムグリの採集記録。ゆらぎあ, No. 33, pp. 42–43. / 大山三ノ沢 (2015.8.2)。[鳥取県]

Naomi, S. (2015) Taxonomic study of the subfamily Steninae MacLeay (Coleoptera, Staphylinidae) from Japan, with descriptions of 14 new species of the genus *Stenus* Latreille. *Nat. Hist. Res.* 13 (2): 1–34. / メダカハネカクシ属の *Steninae* 亜科の改訂。14新種を記載。うち *Stenus davidhulli* Naomi 2015 はタイプ産地が鳥取県久松山 (Mt. Hisamatsu とあるが, おそらく久松山 Mt. Kyusho-

zan のことであろう) (野村周平氏が1984.6.9に採集したもの)。兵庫県の宍粟市赤西 (あかざい) というところでも記録。現在のところこの2件のみの固有種。種小名は生物哲学の巨匠である米国の David Hull 教授に献名したもの。[鳥取県]

Naomi, S. & Nomura, S. (2015) Two new species of the genus *Stenus* Latreille (Coleoptera, Staphylinidae), with the first record and redescription of *S. bifoveolatus* Gyllenhal from Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A*, 41, 1: 55–62, / メダカハネカクシ属の2新種と日本新記録の1種の記載。うち1種 *Stenus vernicosus* Naomi & Nomura 2015 ツヤタチゲメダカハネカクシは鳥取県大山横手道標高820 m (1984. 9.7, Y. Nishikawa leg.) がタイプ産地でほかに鳥取市毛無山 (1989. 5. 23, 鶴崎 leg) がパラタイプの産地としてあげられている。いまのところ, この2カ所の記録のみ。[鳥取県]

Naomi, S. & Watanabe, Y. (2015a) New or little known species of the genus *Stenus* Latreille (Coleoptera: Staphylinidae) from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 21: 95–110. / メダカハネカクシ属の新種記載と数種の新産地。新種として記載された種のうち, *Stenus incumbens* Naomi & Watanabe, 2015 はタイプ産地が隠岐島後横尾山。いまのところ当地固有。[島根県]

Naomi, S. & Watanabe, Y. (2015b) Taxonomic study on the *Cirrus* group of genus *Stenus* Latreille (Coleoptera: Staphylinidae), with descriptions of three new species from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 21: 207–215. / メダカハネカクシ属 *Cirrus* 種群の分類改訂。3新種を含む。うち1種, *Stenus caesariatus* Naomi & Ito in Naomi, S. & Watanabe, Y. 2015 (クロツヤタチヒゲメダカハネカクシ) のタイプ産地は鳥取市佐治村小原 (1988.6.5 鶴崎採集)。京都府加悦町, 兵庫県篠山などの標本がパラタイプとして使われている。[鳥取県]

西川正明・池田紘士・曾田貞滋 (2015) 潜在分布域推定に用いたヒラタシデムシ亜科8種の採集データの記録 (1)。神奈川虫報, No. 185, pp. 79–97. / オオモモフトシデムシ (隠岐・知夫里島)。[島根県]

尾原和夫 (2015) ネズミモチ花序で得たハナムグリ類とカメムシ類。すかしば, No. 62, p. 27. / 大田市代官山公園のネズミモチで採集。2014.7.12。オオキンカメムシなど5種。[島根県]

大畑純二 (2015) クロゲンセイ 1 齢幼虫が宿主エサキムカシハナバチに寄生するための誘引と乗り移りについて。三瓶自然館研究報告 No. 13. pp. 1–4. [島根県]

大畑純二 (2015) クロゲンセイ と宿主エサキムカシハナバチ *Colletes esakii* の蛹化。三瓶自然館研究報告 No. 13.

- pp. 5-14. [島根県]
- 皆木宏明 (2015) 広島県庄原市で採集したチャイロスズメバチの記録. 三瓶自然館研究報告 No. 13. pp. 71-72. / 島根県内でも採れるだろうと示唆. [島根県]
- 皆木宏明 (2015) 島根県大田市街地で轢死していたゲンゴロウ(コウチュウ目ゲンゴロウ科)の記録. 三瓶自然館研究報告 No.13. pp. 69-70. [島根県]
- 野津幸夫 (2015) 出雲市鰐淵寺で採集した2種のカミキリ. 一ヒメアヤモンチビカミキリとクロオビトゲムネカミキリ. すかしば, No. 62, pp. 44-45. / 1998年3月. [島根県]
- 野津幸夫・中 清隆・下雅意公夫 (2015) 枕木山のカミキリムシの記録. すかしば, No. 62, p. 37. / カミキリムシ15種の記録. [島根県]
- 尾原和夫 (2015) コカブトムシを出雲市市街地で採集. すかしば, No. 62, p. 28. / 出雲市大津町雲根, 2009.6.20. [島根県]
- 尾原和夫 (2015) 島根県東部山地で採集した甲虫類. すかしば, No. 62, pp. 28-29. / 飯南町小田県民の森 (2008.7.24) での採集記録が主体. ハンノキカミキリ (島根県RDB情報不足) の記録あり. [島根県]
- Ono, H. & Maruyama, M., (2015) *Giulianium tomokoae*, a new species of intertidal rove beetle (Coleoptera: Staphylinidae: Omaliinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 21: 297-298. / 潮間帯に生息するハネカクシ科の新種, *Giulianium tomokoae* の記載. タイプ産地は香川県高松市庵治町. パラタイプに出雲市坂浦町坂浦 (端山武氏採集) が含まれる. [島根県]
- 鶴崎展巨・川上大地・太田嵩士・藤崎謙人・坂本千紘 (2015) 鳥取砂丘におけるハンミョウ類の分布・生活史と1種の絶滅. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 33-44. [鳥取県]
- Tsurusaki, N. & Taga, H. (2015) Chromosomes of the ragweed beetle *Ophraella communa* (Coleoptera: Chrysomelidae) invaded to Japan. 中国昆虫, No. 28, pp. 1-8. / 2002年に鳥取市への侵入が確認された北米原産のブタクサハムシの染色体核型の報告. 雌雄ともに $2n = 34$ であった. この染色体数は北米産の標本で最初に報告された $2n = 36$ とは異なる. 核型報告としては初めてである. 2002年時点での鳥取県内における本種の分布状況を示す図つき. [鳥取県]
- 山岸瑞樹 (2015) ダイセンセダカコブヤハズカミキリの不思議な行動. ゆらぎあ, No. 33, p. 43. / 大山横手道 (2015.9.12, 1 ♀). 生態写真あり. [鳥取県]
- 山岸瑞樹 (2015) ハンノキカミキリの黒化個体を採集. ゆらぎあ, No. 33, pp. 43-44. / 鳥取市桂見のコンビニに飛来していたハンノキカミキリ黒化個体の記録 (2015.5.13, 1 ex.) [鳥取県]
- Yamashita, Y., Kojima, H., Ishikawa, T. & Kobayashi, N. (2015) Molecular identification of two flightless weevils of the genus *Scepticus* Roelofs (Coleoptera: Curculionidae) inhabiting seashores in Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 21: 199-202. / 鳥取砂丘などにも多い海浜性のゾウムシであるスナムグリヒョウタンゾウムシ *Scepticus tigrinus* (日本海側の海浜に分布), とそれに近縁で太平洋側に分布する *Scepticus uniformis* トビイロヒョウタンゾウムシの分子系統. 両者は外部形態が近似しており変異幅が重なることもあるらしいが, ミトコンドリアCOIと核遺伝子28rRNAではそれぞれが単系統群を形成し, それぞれが good species であることを示した. [鳥取県]
- 吉富博之 (2015) クロヒメトゲムシを島根県で採集. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, p. 306. 隠岐島後でのクロヒメトゲムシ (甲虫 目ヒメトゲムシ科) の記録. 島根県初記録. [島根県]
- 吉富博之・久松定智 (2015) 隠岐の島で採集したケシキスイ類6種. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 18, p. 286. / 隠岐島後からのケシキスイ科 (甲虫) の6種の記録. うち3種は島根県および隠岐諸島新記録. 2種は隠岐諸島初記録. [鳥取県]

【昆虫:双翅目】

- Kakinuma, S. & Kurahashi, H. (2015) A new species of *Lispe* Latreille (Diptera: Muscidae) from Honshu, Japan, with key to the Japanese species. Japanese Journal of Systematic Entomology, 21: 281-285. / ニクバエ科 (Muscidae) の *Lispe* 属の1新種, *Lispe pseudohirsutipes* n. sp. イワミハマカトリバエの記載. タイプ産地は島根県益田市久城町益田川河口. パラタイプとして島根・鳥取両県では, 島根県江津市敬川河口, 出雲市神戸川河口, 鳥取県湯梨浜町天神川河口の標本が含まれる. 他県では宮城県, 新潟県佐渡, 京都府宮津, 山口県下関角島が含まれる. 河川河口付近の湿った砂地に生息. 成虫は6月から9月まで見られるとのこと. [鳥取県, 島根県]
- 坂田国嗣 (2015) 寄生蜂寄生蠅. すかしば, No. 62, pp. 32-33. / 安来町早田町, 鳥取県伯耆町大山などで撮影した訪花ハエ類, ハチ類の写真. [島根県, 鳥取県]
- 田邊裕樹・泉 洋平 (2015) ナガマドキノコバエ島根個体群の生活環—関東個体群との比較—. 中国昆虫, No. 28, pp. 17-20. / シイタケの害虫であるナガマドキノコバエの島根県の集団 (飯石森林組合シイタケ栽培施設) での生活環. 関東個体群と比べて1世代にかかる日数は短い, 死亡率が高く産卵数が少ない. [島根県]

【昆虫:脈翅目】

江澤あゆみ・鶴崎展巨(2015)鳥取県における海浜性ウスバカゲロウ類の分布. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 45-53. [鳥取県]

中山 桂・板井竜二郎・井上健人・柏木峻秀・鶴崎展巨(2015)山陰海岸ジオパークエリア内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布(予報):京都府・兵庫県. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 55-64. [鳥取県]

【昆虫:膜翅目】

林 成多・片岡大輔(2015)鳥取県雲南市木次町ふるさと尺の内公園におけるハチ類生息調査(2013年). ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 91-101. / 2013年の調査で96種の膜翅目(アリを除く)を記録.[鳥取県]

林 成多・野嶋宏一・片岡大輔(2015)鳥取県雲南市木次町ふるさと尺の内公園におけるアリ類生息調査(2014年). ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 205-218. / 2014年の調査で50種のアリを確認。うち13種は鳥取県新記録.[鳥取県]

Maeta, Y., Góukon, K. & Miyanaga, R. (2015) Revised species names of Japanese cleptoparasitic bees and their host, with additional new host records (Hymenoptera: Apoidea). Japanese Journal of Systematic Entomology, 21: 299-303. / 労働寄生のハチとそれらのホストと新しいホスト記録の種名改訂。次の記録が見られる:鳥取県雲南市大東大出日山(おおしびさん)(クロツヤヒメハナバチ *Andrena richardsi* とエサキキマダラハナバチ *Nomada amurensis*)。鳥取市大塚(シロスジヒゲナガハナバチ *Eucera spurcatipes* とダイミョウキマダラハナバチ *Nomada japonica*) [鳥取県]

松井悠樹(2015)鳥取市でウマノオバチを採集。ゆらぎあ, No. 33, p. 44. / 環境省レッドリストで準絶滅危惧とされているウマノオバチの鳥取市香取空山(2015.5.7)の記録.[鳥取県]

宮永龍一・北村 舜・大對桂一・森本健太郎(2015)山陰地方におけるエサキムカシハナバチの営巣生態とカラスザンショウへの訪花性について. 中国昆虫, No. 28, pp. 21-32. / 鳥取県西伯郡南部町のとっとり花回廊の裸地で見つかったエサキムカシハナバチの営巣地での営巣の生態と主要訪花植物であるカラスザンショウの開花, 花蜜量などの調査。本種が運び, 巣内に蓄積する花粉はほとんどがカラスザンショウのもので, それ以外の植物のものは4%以下だという(狭食性)。カラスザンショウの花蜜量は9時頃が最大で, エサキムカシハナバチの訪花もそれと同調していた.[鳥取県]

野津幸夫(2015)松江城山公園でヒラアシキバチを採集。すかしば, No. 62, pp. 23-27. / 鳥根県では記録が少ないヒラアシキバチ。2014.9.30。当地での多くの生態写真つき。[鳥根県]

野津幸夫(2015)枕木山のルリモンハナバチ。追加記録。すかしば, No. 62, p. 45. / 2013と2014年の記録。[鳥根県]

坂田国嗣(2015)ニッポンハナダカバチ撮影。すかしば, No. 62, p. 31. / 鳥取砂丘(2014.6.24)撮影の写真。[鳥取県]

坂田国嗣(2015)寄生蜂寄生蠅。すかしば, No. 62, pp. 32-33. / 安来町早田町, 鳥取県伯耆町大山などで撮影した訪花ハエ類, ハチ類の写真。[鳥根県, 鳥取県]

Watanabe, K. (2015) Notes on three Japanese species of the genus *Cidaphus* Förster, 1869 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Mesochorinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 21: 61-64. / *Cidaphus*属ヒメバチ3種。*Cidaphus atricillus* (Halidae, 1839)の検討標本に氷ノ山大段ヶ平880-1280m産が見える。論文には鳥取県若桜町と書かれているが大段ヶ平は兵庫県側である。が, 鳥取県側にも生息すると考えられるのでここに掲載した。[鳥取県]

Watanabe, K. (2015) Review of the genera *Atopotrophos* Cushman, 1940, *Cladeutes* Townes, 1969, *Hereus* Townes, 1969, and *Neliopisthus* Thomson, 1883, from Japan (Hymenoptera: Ichneumonidae: Tryphoninae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 21: 69-75. / *Atopotrophos viktorovi* Kasparyan, 1973の検討標本に氷ノ山大段ヶ平880-1280m産が見える。論文には鳥取県若桜町と書かれているが大段ヶ平は兵庫県側である。[鳥取県]

【昆虫:鱗翅目】

浅野 隆(2015)キリシマミドリシジミに見られるB斑の緑化型について. 月刊むし, No. 532, pp. 4-8. / キリシマミドリシジミの鳥取県中部(鳥取市鷲峰山から三朝町小鹿溪にかけての地域)では雌の前翅表の青色斑(B斑)が緑色になる個体が発見される。緑化型の出現率は約3%と低頻度ではあるがこれはこの地域の集団でしか見られないものだとのこと。緑化型と青色型の鱗粉を両方もつ個体では見かけが紫色を呈する。本種の鳥取県における生息確認地点を示した地図もある。[鳥取県]

有田 齊・前田善広(2015)珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(10)シジミチョウ科(7)ミヤマカラスシジミ・ベニモンカラスシジミ・カラスシジミ・リングシジミ・ルーミスシジミ・タイワンツバメシジミ・カバイロシジミ・オオルリシジミ・ジョウゼンシジミ

- ミ・スギタニルリシジミ・ヤクシマルリシジミ・タッパ
ンルリシジミ. 43 pp. NRC出版. 3,300円. /ミヤマ
カラスシジミ(三朝町三徳山, 溝口町横手道, 匹見町裏
匹見, 津和野町青野山), カラスシジミ(三朝町波関峠,
溝口町柵水原, 隠岐島後都万村那久, 隠岐島後西郷町
東谷, 大田市三瓶山), ルーミスシジミ(隠岐), スギタ
ニルリシジミ(鹿野町鷲峰山, 三朝町俵原, 智頭町芦津
溪, 溝口町大平原, 江府町御机)の標本がとデータ付き
で図示.[鳥取県・島根県]
- 有田 齊・前田善広(2015)珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写
真およびデータベース(11)シジミチョウ科(8)ゴマシ
ジミ. 49 pp. NRC出版. 3,600円. /三朝町福本, 関金
町地蔵峠, 大山町豪円山, 岸本町柵水原, 日野町別所,
日南町三吉, 日南町中野, 日南町花口, 横田町大峠, 仁
多町野土, 吉田村民谷, 頓原町花栗, 邑智町市, 赤来町
下赤名, 瑞穂町大原, 金城町雲月山, 金城町大佐山の各
産地の複数の個体がデータ付きで図示. 奥出雲町産の
アルピノ型を含む. 現在ではすでに絶滅した産地也多
い.[鳥取県・島根県]
- 有田 齊・前田善広(2015)珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写
真およびデータベース(12)シジミチョウ科(9)アサマ
シジミ・ミヤマシジミ・ヒメシジミ. 75 pp. NRC出版.
4,800円. /佐治村余戸, 大山町楨原, 江府町鏡ヶ成,
匹見町広見, 仁多町阿井の各産地の複数の個体がデー
タ付きで図示. 中国地方の分布状況の解説は淀江が担
当.(KY) [鳥取県・島根県]
- 藤岡知夫(2015)藤岡知夫蝶類コレクションリスト1.
Genus *Luehdorfia*. 187 pp. 北川朝生編, 日本蝶類研究所
発行. /日本最大の蝶コレクションを有する藤岡知夫
氏の標本箱をそのまま製版し, 全個体のラベルデータ
が明示されている. ヒメギフチョウ25箱2,386♂1,020
♀, ギフチョウ97箱8,791♂1,912♀. 鳥取県産, 島根県
産も多く含まれる. おもな採集者は鳥取市の山中捷二
氏. 同氏は1985年からレーザー工学研究所に勤め, 藤
岡氏のもとで30年間, 蝶の仕事をしておられた方であ
る.(KY) [鳥取県・島根県]
- 藤岡知夫(2015)藤岡知夫蝶類コレクションリスト2 アサ
マシジミ・ゴマシジミ. 214 pp. 北川朝生編, 日本蝶類
研究所発行. /アサマシジミ9,559個体, ゴマシジミ
14,292個体の標本箱とレベルデータ. ゴマシジミには
多数の鳥取県産, 島根県産が含まれる.[鳥取県・島根
県]
- 藤岡知夫(2015)藤岡知夫蝶類コレクションリスト3 アゲハ
チョウ科1. 166 pp. 北川朝生編, 日本蝶類研究所発行.
/アオスジアゲハ1,430, ミカドアゲハ1,012, ナミアゲ
ハ593, キアゲハ1,042, モンキアゲハ705, シロオビア
ゲハ592, クロアゲハ609, オナガアゲハ283, ベニモン
アゲハ250, 合計6,516個体の標本箱とラベルデータ. 鳥
取県産, 島根県産も多く含まれる.[鳥取県, 島根県]
- 林 成多(2015)クロメンガタスズメを出雲市平田町で撮
影. すかしば, No. 62, p. 22. /南方系のガ. 2013.10.10.
[島根県]
- 林 成多(2015)ヤホシホソマダラを斐伊川河川敷で撮影.
すかしば, No. 62, p. 22. /出雲市と雲南市の斐伊川河
川敷からの昼行性のガ, ヤホシホソマダラの記録.[島
根県]
- 生田 敬(2015)オオムラサキスギダニ型の記録. ゆらぎあ,
No. 33, pp. 45-46. /鳥取県日野町別所(飼育個体から
2015.6.19羽化)のオオムラサキのスギダニ型.[鳥取県]
- 木村富至(2015)西日本の日本海沿岸のホシミスジ探索記.
ゆらぎあ, No. 33, pp. 33-37. /京都府舞鶴市, 兵庫県新
温泉町, 鳥取県岩美町, 鳥取市でのホシミスジの発生
状況の詳細な報告. 2015年秋の調査. 岩美町では陸上の
集落のユキヤナギでホシミスジの越冬巣を確認した
が, それより西の浦富海岸などで発見できず. 鳥取市
樗谷公園のユキヤナギで見つかる本種の越冬巣は食樹
の移植にともなう移入と推定.[鳥取県]
- 木下茂之(2015)だんだらちょう100号に寄せて~思い出の
蝶~. だんだらちょう, No. 100, pp. 5-8. /ギフチョウ
異常型. 1991.5.1, 大山横手道.[鳥取県]
- 北川朝生(2015)2014年度採集行よりその3シルビアシジミ
探索6勝2敗. 多摩虫, No. 64, pp. 40-53. /山陰地方のシ
ルビアシジミ採集記. 新産地はない. 米子市日野川(9.1
日, 9.4), 安来市飯梨川(9.2), 松江市鹿島町(9.3), 倉吉
市小鴨川(9.5). [鳥取県・島根県]
- 松田裕一(2015)ミヤマチャバネセセリとメスグロヒョウモ
ンの記録. ゆらぎあ, No. 33, pp. 46-47. /鳥取県江府町
鏡ヶ成~御机(1978.7.9)のミヤマチャバネセセリ, 倉
吉市国分寺(1973.6.5), 琴浦町船上山(1973.7.7)のメス
グロヒョウモンの記録.[鳥取県]
- 松井悠樹(2015)鳥取県東部で採集した蛾類IV. ゆらぎあ,
No. 33, pp. 16-28. /鳥取市若葉台北を中心とする鳥取
県東部で採集された236種のガの記録. トラガ, アミメ
ヒメヨトウ, ヨスジキリガ, ホソバオビキリガ, エグリ
キリガ, タイリクウスイロヨトウの6種が鳥取県新記
録と思われる種として取り上げられている.[鳥取県]
- 皆木宏明・三島秀夫(2015)島根県の三瓶山北の原における
チョウ類相 2009年~2014年の調査結果. 三瓶自然館
研究報告 No. 13. pp. 15-26.
- 三島秀夫(2015)島根県で採集されたガ数種について. 三瓶
自然館研究報告 No. 13. pp. 61-64. [島根県]
- 三島昭一(2015)島根県でイエローバンド型ギフチョウを採
集する. バタフライ・サイエンス No.1, p.16. /島根県
2例目とのこと.[島根県]

- 三島昭一(2015)アルビノゴマシジミを島根県で採集. バタフライ・サイエンス No.1, pp. 25-26. [島根県]
- 三島昭一(2015)スギタニルリシジミを奥出雲町猿政山で採集する. すかしば, No. 62, p. 7. / 2014年5月18日の1雄の採集記録. [島根県]
- 三島昭一(2015)鳥取県からジョウザンミドリシジミB型を記録する. すかしば, No. 62, p. 21. / 鳥取市国府町扇ノ山 2014.6.7 (1♀) [鳥取県]
- 中井博喜(2015)安来市伯太川のシルビアシジミの古い標本. すかしば, No. 62, p. 33. / 1974.9.4採集の記録. [島根県]
- 中井博喜(2015)大山町でフジキオビを採集. すかしば, No. 62, p. 48. / 大山町赤松(2014.5.19) . [鳥取県]
- 中井博喜(2015)大山町大山寺付近でのウスバシロの記録. すかしば, No. 62, pp. 48-49. / 大山町豪円山(2014.5.29). [鳥取県]
- 中井博喜(2015)大山桧水高原でキタテハの白化異常個体を撮影・採集. すかしば, No. 62, p. 49. / 2009.10.22採集の個体. [鳥取県]
- 中井博喜(2015)伯耆町でスジグロチャバネセセリ♂を採集. すかしば, No. 62, pp. 48-49. / 伯耆町鬼住山山頂(2014.7.19). [鳥取県]
- 中井博喜(2015)米子市でシルビアシジミ黒斑異常型採集. すかしば, No. 62, p. 48. / 日野川河川敷2012.5.7採集個体. [鳥取県]
- 野津幸夫(2015)フジキオビの島根県西限記録. すかしば, No. 62, p. 30. / 浜田市金城町傍示峠(2013.5.25). 昼行性のガ. [島根県]
- 坂田国嗣(2015) 2014年度蝶観察記録. すかしば, No. 62, pp. 16-21. / 鳥取県と島根県の記録がいろいろ含まれている. [島根県, 鳥取県]
- 坂田国嗣(2015)スキバハウジャクの記録. すかしば, No. 62, p. 31. / 鳥取県伯耆町福永原, 丸山, 広島県庄原市道後山, 島根県奥出雲町呑谷で撮影. 2011 ~ 2014年にかけて. [鳥取県, 島根県]
- 佐々木秀之(2015)ヒメシジミ♀の個体変異に関する知見. ゆらぎあ, No. 33, pp. 31-32. / 鳥取県大山桧水高原と伯耆町大内, および岡山県蒜山本茅部で採集したヒメシジミの斑紋の個体変異の記述. [鳥取県]
- 田村昭夫(2015)鳥取県大山東部山麓のガ類. ゆらぎあ, No. 33, pp. 1-15. / 2007-2009年に鳥取県大山東部山麓(香取, 船上山少年自然の家, 大父木地親水公園, 一向キャンプ場, 笹ガ平いわな屋前, 新小屋峠, 鏡ヶ成, 鍵掛峠展望台)で採集されたガの記録. 22科235種. [鳥取県]
- 田村昭夫(2015)倉吉市小鴨川河川敷のフチグロトゲエダシヤクの生態について. ゆらぎあ, No. 33, pp. 29-30. / フチグロトゲエダシヤク(シヤクガ科)の倉吉市宮川町の小鴨川河川敷における2015年2月の交尾の観察記録および同年5月の幼虫の食草(アカツメクサ, ヨモギ, セイタカアワダチソウ)の記録. [鳥取県]
- 田村昭夫(2015)ハマオモトヨトウ倉吉で大発生. ゆらぎあ, No. 33, pp. 38-39. / 2015年秋のハマオモトヨトウの倉吉市での発生の記録. [鳥取県]
- 田村昭夫(2015)日本鱗翅学会62回大会(鳥取大会)を終えて. ゆらぎあ, No. 33, p. 40. [鳥取県]
- 田村昭夫(2015)ウラジロミドリシジミとミズイロオナガシジミの記録. ゆらぎあ, No. 33, pp. 47-48. / ウラジロミドリシジミ(三朝町三朝高原 2015.6.29), ミズイロオナガシジミ(兵庫県温泉町陸上2015.6.10), ホシミスジ(岩美町陸上 2015.6.10). [鳥取県]
- 鳥越康教(編集 淀江賢一郎)(2015)鳥取砂丘のキマダラルリツバメ. 鳥越頼子(自刊). 平成25年1月に64歳で亡くなられた鳥越康教氏が鳥取砂丘で撮りためたキマダラルリツバメのすばらしい生態写真集. 限定45部の非売品とのこと. 生態写真にはすべて撮影日付が記されており, 資料としても貴重である. 鳥越康教さんには, たしか淀江氏からのご紹介で「レッドデータブックとっとり 動物編」(2002)および「レッドデータブックとっとり 改訂版」(2012)編集時に, チョウ類のすばらしい写真を多数ご提供いただいたが, 私はついにお会いする機会がなかった. そのことが非常に残念である. ご冥福をお祈りする. (NT) [鳥取県]
- 山岸瑞樹(2015)鳥取県東部におけるシンジュキノカワガの記録. ゆらぎあ, No. 33, p. 49. / 鳥取市桂見(2015.10.15), 鳥取市湖山町南5丁目(2015.10.22), 若桜町諸鹿広留野(2015.11.5). [鳥取県]
- 山本千里(2015)米子市でシンジュキノカワガを採集. ゆらぎあ, No. 33, p. 48. / 米子市二本木でのシンジュキノカワガの記録(2015.11.9 ~ 10). [鳥取県]
- 淀江賢一郎(2015)鳥根県で最も古いナガサキアゲハの標本. すかしば, No. 62, p. 4. / 浜田市三隅町(当時, 那賀郡三隅町)での1956年7月18日のナガサキアゲハ♂(Fujikawa, O採集)の標本の存在の紹介. もっとも古い記録は1951年だが, 標本として残っているのはこれが最古とのこと. (NT) [鳥根県]
- 淀江賢一郎(2015)奥出雲町呑谷でカラスシジミを拾う. すかしば, No. 62, p. 29. / 2013.7.12, クモの網にかかった1♀. [鳥根県]
- 淀江賢一郎(2015)テングチョウの顕著な黒色異常型を採集. 一付・2014年のテングチョウの大発生一. すかしば, No. 62, p. 35. / 松江市美保関町産(2014.6.13)の斑紋異常型. 2014年はテングチョウの発生量が多かったとのこと. [鳥根県]
- 淀江賢一郎(2015)鳥根県の古い迷蝶の標本をカラーで公

開. すかしば, No. 62, p. 50. / タイワンモンシロチョウ (三瓶山 1973.6.15) とスジグロカバマダラ (平田市瑞穂大橋 1991.8.16). [鳥根県]

【クモガタ類】

原田 洋・芳村 工 (2015) 土壤動物. その生態分布と多様性. 東海大学出版部 (東京), 153 pp. / 「伯耆大山のササラダニ群集」と題された第1章7節に鳥取県大山のササラダニの垂直分布の話がある。調査地点が14地点あるが、標高傾度に対して等分に選別されたものではない。標高に対して群集にどのような変化があるのか、ここに呈示されているデータでは読み取れないし、本文にもそのような点がわかりやすく書かれているようには見えないのが残念である。[鳥取県]

山内健生・高田 歩 (2015) 日本本土に産するマダニ科普通種の成虫の図説. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 18, pp. 287-305. / マダニの普通種の同定の手引き. 多くの写真と検索部位の図示により検索を容易にしてある。鳥根県や鳥取県のデータが出ているわけではないが、マダニ同定の有用な図説であるので、ここに取り上げた。[鳥取県, 島根県]

【甲殻類】

桑原友春・林 成多 (2015) 鳥根県益田市でカワスナガニを確認. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, p. 60. / 2014年に鳥根県で初めて記録されたカワスナガニ (ムツハアリアケガニ科) の益田市での新産地報告. [鳥取県, 島根県]

大沢正幸・小松浩典・桑原友春・倉田健悟 (2015) 鳥根県沿岸における異尾類の追加記録, ホシザキグリーン財団研究報告, No. 18, pp. 151-159. / 鳥根県新記録として5種のヤドカリを追加。[鳥根県]

大沢正幸・桑原友春・倉田健悟 (2015) 鳥根県沿岸からのスベスベマンジュウガニの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 18, pp. 171-173. / 鳥根県松江市島根町の漁港でスベスベマンジュウガニを記録。[鳥根県]

大沢正幸・桑原友春・倉田健悟 (2015) 汽水姓短尾類2種の日本海沿岸からの新記録. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, pp. 161-165. / 松江市島根町でヒメヒライソモドキ, 隠岐中之島でチゴイワガニを記録。[鳥根県]

【軟体動物】

宮本 康・福本一彦・畠山恵介・森 昭寛・前田晃宏・近藤高貴 (2015) 鳥取県における特定希少野生動物カラスガイ

Cristaria plicata 個体群の現状: 幼生と宿主魚類の関係に着目して. 保全生態学研究, 20: 59-69. / 鳥取市の湖山池では2012年3月の湖山川水門の開放により湖山池が少なくとも400年以上は経験していなかったはずの高濃度に塩分が上昇し, 湖山池の生態系を特徴づけていたガマ類, ヤハス, ヒシ, トンボ類などの淡水性の動植物がすべて絶滅し, 当池の水生生物の種多様性はあらゆる生物群で顕著に減少した。鳥取県と鳥取市が共同で行なったこの事業の問題点は, ①市民・県民にこの事業をあたかも生態系回復であるかのように装い, 正しい情報を伝えていないこと, ②鳥取県内の生物の専門家の誰にも事前にこの事業の是非の意見収集をしておらず, アセスメントもやらずに事業を計画・実施したこと, さらに, きわめつけは, ③鳥取県が県の条例で特定希少野生動植物に指定しているカラスガイ (当時, 鳥取県で本種の生息が確認されていたのは湖山池だけであった) の保全について事業実施の約半年前から数度の相談を受けた私 (鶴崎) と谷岡浩氏がそのような高濃度の塩分になればカラスガイが生息できないことを指摘したにも関わらず, 事業を強行し, 結果としてカラスガイを絶滅させたことである。水門開放について私と谷岡氏には事前には何も知らされておらず, 我々が水門開放を知ったのは新聞報道であった。県が特定希少野生動物に指定している湖山池のカラスガイを自ら絶滅させた鳥取県はあわててカラスガイの保全にとりかかり, その後, カラスガイが見つかった多鯰ケ池 (ブルーギル・ブラックバスの増殖で絶滅寸前) や2カ所のごく小規模の人工ため池の個体群での保全へ向けてなされた研究の成果が本報である。その努力は評価するし, おおいに頑張っしてほしいと思う。が, そもそもこの湖山池の水質保全や高塩分化事業に計画当初から深く関わっていたはずの鳥取県衛生環境所が動植物相の解明に日頃努力している地元の研究者・生物愛好家と密に情報交換をする努力をしていれば, そもそもこのような研究 (県民の税金が使われているはずである) をすることもなかったのではないかと。この点を鳥取県衛生環境研究所の職員 (著者のうち4名がここに所属) は大いに反省していただきたい。ちなみに本報告によると, 多鯰ケ池は外来魚のコントロールができておらずその対策をしっかりとやらないとカラスガイの存続は困難とのことである。残りの小池には外来魚はいないが1カ所は底質が有機物に富んでおり夏季に貧酸素化をおこすことが危惧される点として指摘されている。なお, この湖山池汽水化については, 鳥取県生物学会, 日本野鳥の会, 鳥取自然保護の会など12団体の連名で見直しの要望書を2013年2月に提出したが, 平井伸治知事は多忙を理由に我々に会おうとすらしなかつ

た(この直後に湖山池にアザラシが1頭出現した際にはすかさずTV出演をしていたのはいったいどういうことであろうか)。また、鳥取県議会もこの要望書を無視し、湖山池会議はいまだにこの事業に何の見直しも評価もしていない。湖山池将来ビジョンが掲げた水質改善、生物多様性回復の目標のいずれも達成していないにも関わらず、である(達成どころかどちらも事業前よりも悪化させたのである)。(NT) [鳥取県]

【その他の無脊椎動物】

菊池智子・大高明史(2015)ワカサギ杯頭条虫(条虫綱変頭目杯頭条虫科)の分布と生活史。陸水学雑誌, 76: 129-138。
 /魚類のワカサギの消化管に寄生するワカサギ杯頭条虫 *Proteocephalus tetrastomus* (条虫綱:変頭目:杯頭条虫科) の寄生率を全国34湖沼で調べたもの。最も南西側の調査地として鳥取市湖山池が入っている。2002年3月2日に採集された湖山池のワカサギ111個体中には寄生個体は含まれていなかった。長野県・山梨県近辺の湖沼には寄生率100%のところが多いように見えるが、そこから離れた青森県や北海道にも寄生率の高い集団は見える。寄生率100%の青森県小川原湖での調査結果にもとづき季節消長と生活史も報告されている。なお、湖山池では2012年の塩分導入以後、ワカサギはほとんどいなくなっているらしい。(NT) [鳥取県]

長澤和也・中野浩史・林 成多(2015)宍道湖産コイ科魚類に

寄生していたヒダビル。ホシザキグリーン財団研究報告. No. 18, p. 66. /宍道湖で採集されたウグイ、ギンブナ、フナ属1種に寄生していたヒダビルの記録。[鳥根県]

2015年に鳥取・島根両県内をタイプ産地として報告された種

Stenus davidhulli Naomi, 2015 和名なし(鞘翅目ハネカクシ科)。タイプ産地:鳥取市久松山。[鳥取県]

Stenus caesariatus Naomi & Ito in Naomi & Watanabe, 2015b クロツヤタチヒゲメダカハネカクシ(鞘翅目ハネカクシ科)。タイプ産地:鳥取市佐治村小原。(Naomi & Watanabe, 2015bに記載されているが、命名者はNaomi & Itoであることに注意) [鳥取県]

Stenus vernicosus Naomi & Nomura 2015 ツヤタチゲメダカハネカクシ(鞘翅目ハネカクシ科)。タイプ産地:鳥取県大山横手道。[鳥取県]

Stenus incumbens Naomi & Watanabe, 2015a 和名なし(鞘翅目ハネカクシ科)。タイプ産地:隠岐島後, 横尾山。(Naomi & Watanabeによる2015年発行の論文は2つあり、本論文はNaomi & Watanabe 2015bとは別論文であることに注意) [鳥根県]

Lispe pseudohirsutipes Kakinuma & Kurahashi, 2015 イワミハマカトリバエ(双翅目ニクバエ科)。タイプ産地:島根県益田市久城町益田川河口。[鳥根県]